

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | |
|---------------------------------------|
| I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立九条弘道小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ ・ Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 1クラス 14名 2年 2クラス 22名 3年 1クラス 25名 4年 2クラス 24名 5年 2クラス 18名 6年 2クラス 24名 (育成学級含む) 教職員 18名 保護者 40名 計 185名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ()) ② 行事名 (オリパラ体験学習)) ③ その他 ()) (2) 地域における活動 ① イベント名 ()) ② その他 ())
4 目 標 (ねらい)	• 障がい者スポーツの選手を招いた講演や競技実技体験などを通して、オリンピック・パラリンピックについて知るとともに、障がいのある人に対する理解、また、共生していくことについての理解を深めることができるようにする。 • 障がい者と健常者の差異は生活方法だけであることを認識し、自分を含めすべての人が無限の可能性を秘めている存在であることに気づく。
5 取組内容	【事前学習】 5, 6年生 ○パラリンピックってなんだろう 1)パラリンピックの映像を見て気づいたことや感じたことを書く。 2)パラリンピックの競技で使う用具についてクイズ形式で学ぶ。 3)パラリンピックの変遷について知る(歴史, 用具の変化)。 4)パラリンピックの「すごい!」と思ったことを交流する。 (工夫や支援によって障害のあるなしに関わらず、自分の限界に挑戦できることに気づく) 5)パラリンピックを象徴する言葉を知り、学習の感想を書く。 ※1～4年生の事前学習は、パラリンピックの映像を見たり、

先生の話を聞いたりしてパラリンピックについて興味を高めておいた。

【オリパラ体験学習】前半：1～3年 後半：4～6年

- 1) 低学年入場
- 2) 低学年体験学習開始
- 3) 学習のめあて（パラリンピックに興味を持つこと）
- 4) デモンストレーション（保護者とNPO 法人パラキャン講師，教職員が入って車いすバスケット）



- 5) 車いす体験
 - 車いす鬼ごっこ（10人）代表の児童
 - 車いすリレー（全員）
- 6) 講師の方に質問
 - どうして車いすバスケットを始めたのか
 - 車いすの生活は大変ではないのか
 - 歩けるのにどうして車いすバスケットをしている人がいるのか など



7) まとめ（講師の方から伝えたいこと：パラリンピックに込められた意味とは？）

- 8) 低学年退場
- 9) 高学年入場
- 10) 高学年体験学習開始
- 11) 学習のめあて
- 12) デモンストレーション
- 13) 車いす体験
 - 車いすバスケットボール体験（10人）代表
 - 車いすリレー



	<p>14) 講師の方に質問</p> <ul style="list-style-type: none"> • 車いすバスケの車いすにはどのような工夫がされているのか • 車いすでこけてしまうことはあるのか • 車いすの生活で困ることはどんなことか など <p>15) まとめ</p> <p>【事後学習】</p> <p>○オリパラ体験をして、知ったこと、感じたこと、考えたことを書き、交流する。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○様々なスポーツがあることを知り、スポーツに対する興味を高めることができた。</p> <p>○パラリンピックで行われているスポーツは障害のある人だけが行うスポーツなのではなく、健常者も共に楽しむことができるスポーツであると感じることができた。実際に車いすバスケに興味をもち、自分から車いすバスケの練習を見学に行く積極的な姿が見られた。</p> <p>○パラリンピックで行われるスポーツは、用具やルールを工夫することで、だれもが自分の目標に向かって自分を高めていくことができるようになっていくことを知ることができた。</p> <p>○体験や講師の先生の話から、障害のある、ないに関係なく、「できること・できないこと」はみんなにあるということを知り、目的に向かうまでの手段が人それぞれ違うだけであることを感じることができた。</p> <p>○パラリンピックの意義「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」という考え方に強く心を打たれた児童が多かった。講師の先生の「できないことを探すのではなく、できることを探してください。自分のことも。友達のことも。」というメッセージに児童も保護者も教職員も前向きな気持ちを持つことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○午前中に運動会、午後オリパラ体験を行うことで、どっぴりとスポーツにひたることができるようにした。自分たちでしっかりと体を動かした後、違う視点でスポーツを見る、体験することで、様々な角度からスポーツを考えられるようにした。</p> <p>○保護者や教職員が参加し、デモンストレーションを行うことで、子どもの興味関心をひき出せるようにした。</p> <p>○高学年では事前にパラリンピックの歴史や競技のルールや工夫を学び、予備知識をもった上で体験をするようにした。このことで、「楽しかった」という受け止めだけでなく、疑問や予想を確かめることができた。</p> <p>○振り返りの学習を行うことで、さらに関心を高められるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○今回は、体験が全校(前半：低学年、後半：高学年)の実施だったため、車いす体験の時間が多く取れなかった。全校で実施した後、4年生は総合的な学習の時間のテーマが「福祉」なので、継続して講師の先生に来ていただき、体験を深めていくことができたらいと思う。ただ、費用面で何度も行うことは難しい。</p>

9来年度以降の 実施予定	○来年度も実施したいと考えている。全校での実施も考えているが、4年生での実施にし、総合的な学習の時間の学習の中で位置づけ、さらに深く学習していくことができると考えている。
-----------------	---